

## 令和6年度 第2回医療系フォーラム実験小委員会 議事概要

- I. 日 時： 令和6年9月20日（金） 13:00～14:20
- II. 場 所： 公益社団法人 私立大学情報教育協会
- II. 出席者： 片岡主査、神原委員、原島委員、山元委員、中山委員、二瓶委員、井端事務局長、森下主幹

### III. 資料

- ① 「ICT活用による多職種連携授業の実践」紹介ビデオに関するアンケートのお願い
- ② 「ICT活用による多職種連携授業の実践」紹介ビデオに関するアンケート
- ③ 「ICT活用による多職種連携授業の実践」紹介ビデオ視聴状況
- ④ 「ICT活用による多職種連携授業の実践」紹介ビデオに関するアンケート集計結果
- ⑤ アンケート集計結果のグラフ
- ③ アンケートの中で、検討すべき、意見、感想

### IV. 議事概要

#### 1. 「多職種連携授業の実践」紹介ビデオに関するアンケートについて

第1回委員会の検討を踏まえて、7月に実施した「ICT活用による多職種連携授業の実践」紹介ビデオに関するアンケートについて、資料①、②によりアンケートの内容、発送先、依頼内容が事務局から報告された。

##### ① 発送先

医学部、歯学部、薬学部、看護学部（学科）、社会福祉系の学部（学科）栄養系の学部（学科）を有する  
国・公・私立大学 298 大学の学長先生宛。

##### ② 発送数

国・公立大学 86 大学、私立大学 212 大学

##### ③ 回答数 45 件

国・公立大学 6 大学-12 件、私立大学 17 大学-29 件、大学名未記載の回答 4 件

#### 2. 「多職種連携授業の実践」紹介ビデオの視聴状況について

資料③の通り、「ICT活用による多職種連携授業の実践」ビデオの総視聴回数は1,125回で、昨年11月～12月のビデオの掲載時と本年7～8月のアンケート実施時に視聴数が増えている。

#### 3. 「多職種連携授業の実践」紹介ビデオのアンケート集計結果について

資料④、⑤、⑥で「アンケート集計結果の概要が報告された。

- ・ 回答は、国・公立大学で 6 大学-12 件、依頼大学の 7%、私立大学で 17 大学、29 件で依頼大学の 8%であった。
- ・ 回答 45 件の内容から見るとアンケート依頼時に視聴していたのは 61%、視聴していないのは 39%であった。（資料の 54%・46%は誤り）
- ・ 視聴していない理由は、知らなかったが 95%で、十分な周知ができていないことが要因と思われる。
- ・ 視聴し、利活用している状況は、「①多職種連携授業の参考にする。又はしたい」が 25%、「②シナリオ、プラットフォーム、学生ガイド、評価などを参考にしたいと考えている」が 30%、「③ICT活用の利点を学内の理解共有に役立てたい」が 19%、「④今後の参考にする・したい」が 25%、である。
- ・ 記述回答を見ると、多職種連携授業を実施できていると思われる記述は、2 番の「理解できたが、学内で対面で多職種連携授業を実施できているので、今後の参考としたい」、8 番の「今後ビデオを視聴して、他の多職種連携授業の担当者な理解についても、努めたいと思います」、16 番の「既に行っている内容だなと思いました。今後は評価方法の管理や利活用なども学べると嬉しいと思います」、38 番の「よくわかりました。本学でも同様の取り組みを既に実践しており、今後の課題として学間で利用可能なリソースの

不均衡、サービス提供企業の差異によるメリット享受の喪失などが課題とされます。すべての高等教育機関で標準的に使用できるナショナルサービスが展開されるとよいですね」、45 番の「PBL 型授業の実践について、取り組む重要性を改めて認識することができました。また、多分野グループの有効性については納得する一方で、本学における喫緊課題として、他大学連携を検討する必要があると感じました。貴重な資料をありがとうございます」、47 番の「多分野の学生が参加するため、異なる背景知識をもつ学生の相互理解を促進させるための仕組みが大切であると感じました。また、事前準備に苦労されたのではないかと推察しました」、くらいしかない。

- これから推定すると多職種連携授業はまだ取組が遅れているように見えることから委員に状況を確認した。

<主な意見>

- 医療系ではモデル・コアカリキュラムに取り組み、義務付けられている。回答の先生の立場がどうかによるが、まだ取組みができていないのか。取り組んでいない先生にはピンときていないのか。これだけでは判断できないと思う。
- 1,125 回も視聴されているのにアンケートの回答が 45 件しかないのはなぜか。未だ現場では実施できていないのか。

- ※ 昨年 11 月に掲載の案内時にはアンケートは実施しておらず視聴した際にアンケートが案内されていない。

- ※ 視聴の有無にかかわらず、298 大学の学長先生宛にアンケートをお願いしたため、視聴とアンケートが結び付けられていない。視聴していてもアンケートを知らない先生が殆どと思われる。

- ※ アンケートの発送先は学長先生で、そこから学部長、学科長にお願いする内容になっているが、情報センターで止まっていたり、学内の一部の教員にアンケートが依頼されてもビデオを視聴した現場の先生全員にアンケートが伝わっていないのではないかと。この結果をもとに多職種連携授業が実施されているかいないかは判断できない。

- ※ 本学では、学内 3 学科で多職種連携授業を対面ではあるが実施しており、まだ取組みができていないようなことはないと思う。

- ※ 本学でも学内で多職種連携授業を対面で実施している。規模の小さい大学では取組みが遅れているのかとも思う。取組みができていないのではなくアンケートが現場の教員まで下りていないのではないかと。

- ※ 本学は学部連携で単位もある多職種連携授業を実施しており、学生は積極的に取り組んでいる。

- 今回のアンケートは、あくまで昨年 11 月に配信した「多職種連携授業の実践」紹介ビデオについて、視聴状況をアンケートし、課題解決に向けた Q&A を作成することを目的にしたので、アンケートの結果を踏まえて、「ICT 活用による多職種連携授業」の普及にむけた Q&A の作成を考えたい。

- 多職種連携教育の位置づけはモデル・コアカリキュラムにあるので私情協が触れる必要はない。私情協としては、「ICT を活用した新しい多職種連携授業」を提案していくことが必要と思う。

- その意味で、資料⑥-3 の「設問「今回のビデオについて、不明な点、より詳細な情報提供など意見・感想」の 1 番の意見【動画にすることで説明がわかりやすくはありました。ただ、簡易版のリーフレットなど要点をまとめている物のデータ配布もございましたら、動画を見る機会がない者も把握しやすいかと考えます】を踏まえて簡易版のリーフレットを作成してはどうか。

- ※ ビデオを見なくても概要がわかり、視聴に繋がる簡易版のリーフレットの作成は良いと思う。

- ※ ビデオ視聴者が 1,200 名近いことから配信の意義はあったと思う。さらに視聴を促進するためにも簡易版のリーフレットを作成することは意義があるのではないかと。

※ リーフレット作成は良いと思う。せっかくのビデオをより大学内にいきわたらせるためにも必要と思う。

※ 簡易リーフレットで教員に興味を持ってもらいビデオ視聴に繋がれば良いと思う。

#### 4. 「多職種連携授業の実践」の簡易リーフレットについて

制作する簡易リーフレットは、ビデオを制作いただいた委員に分担して、「リーフレット」に掲載する内容（文案）を（箇条書き）で作成いただき、次回の委員会で取りまとめることにした。

担当の委員は、別途お送りする「ワークシート」に、以下の役割分担で掲載する内容（文案）を箇条書きで記入いただき10月末迄に事務局に返送いただくことにした。なお、廣井先生が異動されたため、廣井先生の担当部分は片岡先生にお願いすることにした。

「多職種連携授業の実践」の簡易リーフレットの役割分担

0. はじめに （片岡先生）
1. 授業準備 （片岡先生）
2. 授業運営のポイントと工夫 （片岡先生）
3. 分野横断型学修のプラットフォームと学修支援システム（二瓶先生）
4. アイスブレイキングの工夫 （小原先生）
5. ファシリテーションの基礎と工夫（片岡先生）
6. 分野横断型授業の成果と課題 （片岡先生）

#### 5. 次回の委員会

11月11日（月）18：00 オンライン開催に決定した。

・お願い事項

- ① 「多職種連携授業の実践」簡易リーフレット掲載内容（文案・箇条書き）ご担当の先生には10月末までに別途お送りするワークシートにご記入の上事務局に返送いただく。

・その他

- ① 第3回委員会で「簡易リーフレット」をとりまとめたら本年度の委員会は終了とする。